

評価シート（リアン東さくら）2023

総評

【特に評価できる点】

1	<p>■支援の質の向上に向けた組織的な取組 前回の第三者評価により把握した課題を全職員で共有して、改善に取り組むとともに、毎年評価基準に沿った自己評価を実施して改善状況を確認してきました。今回の第三者評価受審に際しても組織的な評価・見直しを実施しています。 (I-4-(1)-①、②)</p>
2	<p>■施設長のマネジメントスキル 施設長は、その職務上の立場等を活用して様々な機会から施設を取り巻く社会動向や法的規範に係る情報を得て、これらをしっかり理解したうえで組織に全体化しています。利用者や職員に対しても笑顔で接し、職員へはぶれない指導に努めて、信頼を得ています。法人の定める人事考課制度に沿って、総合的な人事管理を行うとともに、職員の意向や勤務状況にも気を配って、職場の良好な人間関係の構築に努めています。 (II-1(1)-①～II-2-(2)-①)</p>
3	<p>■母親と子どもの地域交流支援 地域社会とのネットワークづくりを積極的に行い、母親と子どもと地域との交流を拡げて豊かな社会生活の支援をしています。 (II-4-(1)-①、②)</p>
4	<p>■地域ニーズにもとづく公益的事業の展開 事業計画に地域のひとり親家庭を支援することを明記し、地域の住民や諸機関との連携により、積極的に地域にアウトリーチして情報を収集するとともに具体的な取組を展開しています。 (II-4-(2)-①、II-4(3)-①、②)</p>
5	<p>■母親と子どもに寄り添った支援 母親と子どもの意思や主体性を尊重して、伴走的な支援に努めています。施設の想いや計画をわかりやすく説明し、母親と子どもの自己選択を優先して母親と子どもの意向に組織的かつ迅速に対応しています。 (III-1-(1)-①、②、(2)-①～③、(4)-①、②)</p>
6	<p>■部門協働によるアセスメントの実施と自立支援計画の策定・評価 母子・少年・保育3部門協働による詳細なアセスメントが実施され、その結びに「見立て」が記述されています。これにより、的確な自立支援計画が策定・みなおされb評価されていますが、そのプロセスに母親自身が主体的に参加できる機会が設けられています。 (III-2-(2)-①、②)</p>
7	<p>■充実したプログラム（イベント）による豊かな生活と変化 多様なイベント開催を行って、母親と子どもの生活クオリティを高めています。また、その計画には母子の自主的な参加を促すとともに、母親や子どもが参加しやすいように工夫しています。 (A-1-(3)-①～A-1-(4)-②)</p>
8	<p>■特定妊婦への支援 近年増加している特定妊婦等について、子どもを一時預かりして母親の心身のゆとりをサポートするとともに、乳幼児家庭訪問プログラムを実施して、母親の育児スキル獲得や愛着関係構築を支援しています。 (A11)</p>
9	<p>■不登校児が多数を占める中高生の活動支援と居場所作り 中高生が主体的に運営するリアンラボでは、学校以外の居場所を保障して活動を支援しています。リアンラボやキャンプには学生ボランティアを始め、多くの大人が関わり、安心な大人モデルを呈示しています。 (A14～A16)</p>
10	<p>■母親の就労支援 ハローワークとの連携で実施している適性検査に加え、施設内で就職準備講座やセミナーの実施も検討しています。キャリアカウンセラーが職業選択を助言したり、母親がキャリアプランを立案できるよう相談にのる体制もあります。NPO法人の学習支援を受ける計らいや施設内でオンライン学習ができる部屋やPC貸出を実施しています。 (A24)</p>

【改善を求める点】

1	<p>■ホームページのシステム更新 法人3カ所の母子生活支援施設では、ホームページのセキュリティ改善のためのシステム変更を作業中のため、情報の更新が遅れています。早期の環境整備と適切な情報公開を期待します。 (Ⅱ-3-(1)-①)</p>
2	<p>■BCPの充実と確実な運用 令和5年度に策定したBCPについては、研修や普段の訓練等により、職員全体の理解を深めて実効性あるものとして運用させることを期待します。またBCPは自然災害や感染症に限らず、事業の継承を保障するあらゆる可能性へのリスクヘッジが求められます。 (Ⅲ-1-(5)-③)</p>
3	<p>■全職員を対象とする性教育研修の早期実施 現在少年指導員が性教育研修を受講して、子どもの年齢や発達段階に応じて正しい性知識と思いやりの心を育んでいます。 今後は、全職員を対象とした内部研修の実施が検討されており、その早期実現を期待します。 (A17)</p>

	a評価	b評価	c評価
I領域	8	1	0
II領域	17	1	0
III領域	16	2	0
A領域	25	0	0

共通評価基準（45項目） I 支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	自己評価	F評価
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○	○
<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、母親と子どもへの周知が図られている。	○	○
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>リアン東さくら（以下「施設」）では、「家族が家族らしく子どもが子どもらしく過ごせる環境づくり」という命題のもとに理念・基本方針そして地域社会に向けた内容を含むビジョンを明示しています。母親へは、施設内の掲示や、毎月配布する行事予定表にも記載して周知しています。生活に係る説明文書はイラストも用いてわかりやすく示され、最後に「東さくら園が大事にしていること」として簡潔に締めくくっています。子どもには、「学童のしおり」に施設での生活の説明をわかりやすく綴り、施設の想いや方針を周知しています。職員へは各種会議を通して周知を徹底しています。理念・基本方針、そして大事にしていることは和英の2か国語で表記していますが、今後は他の言語も併記することを期待します。</p>		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	自己評価	F評価
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	a
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの数・母親と子ども像等、支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする母親と子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○	○
<input type="checkbox"/> 定期的に支援のコスト分析や施設入所を必要とする母親と子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>施設長が法人の施設長会や理事会、大阪市児童福祉施設連盟の施設長会などに参加するほか、職員も母子生活支援施設協議会主催の研修会や会議に参加して、社会福祉事業の動向を把握しています。定期購読している福祉情報誌からトピックスを切り抜いて、前述の把握情報とともに事務所に掲示して職員に周知しています。施設の運営状況は、毎年度の事業報告書に記して、職員会議等を通して組織内で共有しています。経営状況についても、毎月会計指導を受けています。昨今では、平成28年の児童福祉法改正により、家庭養育優先が謳われ従来から母子分離せずに家庭養育の支援を行ってきた母子生活支援施設の利用促進を図る取組の必然性や、特定妊婦の産前産後の切れ目のない支援の重要性を認識しています。</p>		
② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	a
<input type="checkbox"/> 経営環境や支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	△
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>事業報告・事業計画は法人役員間に課題が共有されています。施設長は事業計画の進捗状況や事業運営をめぐる内外の環境を把握分析して課題を抽出し、具体的な取組を進めています。財務諸表などの経理情報については、必ずしも全職員に周知されていませんが、改善課題については施設内の各種会議で職員間で共有し、具体的な取組を組織的に進めています。多岐にわたる利用者支援を実施・継続していく中で、職員の増員は職場環境の改革のためには必然であり、予算増強と人材確保を目指しています。今後、人材確保が厳しくなることも想定して、同法人3か所の母子生活支援施設の人員配置や人事交流等を含めて検討していく必要があり、職員の休日確保など職場環境改善に向けた取組を進めています。</p>		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		自己 評価 結果	F 評価
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	△	△
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	△
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
令和3年厚労省発の「児童養護施設等における自立支援体制の強化」に母子生活支援施設も対象と位置づけられたことを受けて、専門職の加配配置計画のビジョンを示していますが、支援に関する具体的な計画の展望が不十分です。施設の中・長期保全計画の展望は示されていますが、建築や設備の各要素ごとの耐用年数を踏まえた長期修繕計画の策定とそれに伴う収支の見通しを中期収支計画（令和4年～令和8年）にも反映し、これを推進していくための、いっそうの財務基盤の安定化が求められます。			
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
事業計画は、現在の社会情勢に応じた母子生活支援施設に求められるミッション、施設の理念・基本方針・ビジョン、および中・長期計画を踏まえて策定されています。令和5年度事業計画は8分野23項目にわたり、単なる行事計画ではなく実現可能な具体の詳細な内容を記しています。また、事業計画の内容は収支予算にも反映されています。			
(2) 事業計画が適切に策定されている。		自己 評価	F 評価
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
毎年9・10月に各部署において運営をとりまく環境や計画進捗状況の評価し、立案した計画を主任会議や運営会議、職員会議でブラッシュアップしています。12月をめぐりに計画を集約してリーダーが上申し、施設長が事業計画に統合する流れとなっています。施設長は理事長ヒアリングを経て、法人役員の承認を得て事業計画を確定し、年度初めの職員会議で全体化を図っています。上半期、下半期で計画の実行状況を振り返り、次年度に反映しています。			

② 7 事業計画は、母親と子どもに周知され、理解を促している。	a	a
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、母親と子どもに周知(配布、掲示、説明等)されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や母親会等で説明している。	○	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、母親と子どもがより理解しやすいような工夫を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、母親と子どもの参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

母親の自治会(睦会)が隔月に開催されており、4月の睦会において所信表明として施設の運営方針や行事計画等の説明を行っています。睦会への参加率をあげるために、バザーを開催するなどの工夫をしており、母親の概ね6割程度が参加しています。大勢の集まりへの参加が苦手な方もいますし、当日の都合もあって欠席する方には個別に説明するほか、1階の掲示板の「施設からのお知らせ」で周知しています。子どもに対しては事業計画の内容に沿った行事の実施などを通して、支援の目的や狙いを伝えています。

4 支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	自己評価	F評価
① 8 支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく支援の質の向上に関する取組を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では、毎年第三者評価基準に沿った自己評価に取組んでいます。今回の受審では、職員が個別に自己評価を行った上でグループ毎に意見交換を行い、その内容を組織としての評価に反映しています。評価結果を集約した書面を職員全員で確認し、決済をとっています。前回の受審と同様に、評価機関から講評を聞く機会を設けて職員間で評価結果を共有し、分析して改善課題を明確化する予定です。またこれとは別に、法人の内部監査では、運営や支援など広範囲な分野に詳細な評価が実施され、改善すべき課題を抽出しています。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

前回の第三者評価受審(令和3年度受審:評価決定は令和3年12月22日)で気づきを得た改善課題については、令和4年1月の職員会議において全職員で共有し、概ね以下の項目について改善に取り組んでいます。すなわち、①運営の透明性を確保するための情報公開(HPの見直し)、②母子のアフターケアを充実するための地域ネットワークの構築、③母親向けの意見箱の設置、④母親と子どもからの相談や意見に対する対応マニュアルの整備、⑤BCPの策定。以上は、改善レポートで改善方法を共有しています。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		自己 評価	F 評価
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
施設長の役割と責任は、法人の管理規程のほか、「業務マニュアル」「職員職務分担表」「人事考課制度」などに明示しています。また、法人の人事考課制度実施要綱のなかに施設長以下各職責に応じた職務遂行基準を定めています。その中で施設長が不在の場合における権限委任も明確になっています。施設長は、正確な情報に基づく助言・指導を通じて、職員からの信頼を得てリーダーシップを発揮しています。その詳細はⅡ-1-(2)-①で評価します。			
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
施設長は、法人施設長会や各種研修、会議などに積極的に参加して、多岐にわたる法令や倫理を正しく理解しています。その中で、組織として遵守すべき法令等については職員会議や日々の引継ぎ会議で説明し、必要に応じて資料の配布や回覧を行っています。昨今では、児童福祉法の改正で取り上げられた「子どもの意見表明の重視」や、困難女性支援法に母子生活支援施設が位置づけられたことを踏まえて、その認識を共有して同法の活用を検討しています。			
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		自己 評価	F 評価
①	12 支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
施設長は、自身が様々な情報を仕入れることのできる立場にあるので、それらをしっかり把握して組織に下ろして共有しつつ、職員とともに創っていくというスタンスで臨むことを目標としています。職員も、施設長がいつも母親や子どもに笑顔で声をかける姿勢や、そのコミュニケーション力、程よい距離感を保たれていることを模範としています。また職員にも腰を低くして仕事のこともその他のことも大変相談しやすく、そのうえで仕事が丁寧、しっかりと調べたうえで指示をしてもらえるので、言う事に一貫性がある指導に従いやすい、などと一様に信頼を寄せています。			

② 13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	a
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

施設は、認定定員の50世帯を維持できる堅実なマネジメントを遂行しています。施設長は、毎月、会計指導を受けて健全な経営に取組みつつ、国の予算や市の補助金事業について、積極的に情報収集し、より安定した施設運営を目指しています。母子生活支援施設に求められる機能の高次化・多様化にもいち早く取り組み、社会に求められる施設を目指しています。職員に対して、受容的に接して信望を獲得し、職場の人間関係を良好に保っています。施設運営に関わる法令や施策情報、社会情勢を職員と共有し、ともに改善を目指す体制づくりに努めています。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	自己評価	F評価
① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	a
<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○	○
<input type="checkbox"/> 支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○	○
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○	○
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

法人に、人材確保委員会・法人セミナー実行委員会を設置して計画的な人材確保と情報発信および育成計画を実施しています。基幹的職員や各種専門職の配置・職務分掌については「配置基準」や「職員職務分担表」、「人事考課制度」に明示しています。法人インスタグラムを開設し、各施設の取り組みを公表し、人材確保に努めています。「新人職員指導マニュアル」(R2.3.28)を策定し、入職から3ヶ月間の指導手順を定めています。施設では新人指導には施設長が中堅～上級職員の中から担当を任命して取組んでいます。令和4年度に、保育士2名の退職がありましたが、補充ができています。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	a	a
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	○	○
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

法人では人事考課制度実施要綱を定め、人事考課の目的として、①法人の理念や方針の理解、②自らの職務課題を把握すること、③マネジメント能力を高める、④働くことのモチベーションの維持、を記しています。職員は、研修ノートを活用するなど、主体的な能力開発(育成)に努めつつ、年度初めに目標管理シートを作成し、半期で振り返り(自己、管理職とのフィードバック面談)を行い、後期の見直しをしています。このように、総合的人事管理による人材育成が図られているとともに、昇格・昇給等人事基準として正当な対価への反映も就業規則に明示して行われています。そのほかに、メンタルヘルス不調職員に係る休職及び職場復帰に関する規程を定めるなど、総合的なマネジメントの体制を整えています。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	a
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	○
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○	○
<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

法人本部の「働きやすい職場環境改善委員会」から、法人の母子生活支援3施設では年間休日が100日を下回っているとの指摘があり、3施設協同で勤務時間のあり方（削減のための方策）検討を進めています。施設では職員の勤怠状況を管理職全員で把握したうえで本部に報告し、休暇取得を促しています。各職員の生活状況に応じて勤務時間固定での勤務、宿直業務の免除などワークライフバランスに配慮していますし、勤務表を作成する際は、勤務間インターバルに配慮して作成しています。休憩時間を確保することは労働者の権利であるという観点で、行事などの取り組みの棚卸しをしていく予定です。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

	自己評価	F評価
① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標（目標項目、目標水準、目標期限）が明確かつ適切に設定されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

人事考課実施要綱には、期待する職員像や職員等の役割と到達水準が詳細に明記されています。職員個々の目標管理シートは、年度初めに目標を設定し、中間と年度末に自ら到達状況を振り返り、評価をおこない、振り返りにおいて、具体的に表現できていることは、本人の自信に繋がっています。管理職は中間の面接、年度末の面接時に本人の目標に添って評価し、また、次年度の目標についてもアドバイスをおこなうなど、職員の目標管理の仕組みが構築され、職員個々の育成に向けた取組が実施されています。

② 18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	a
<input type="checkbox"/> 施設が目指す支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○	○
<input type="checkbox"/> 現在実施している支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○	○
<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

職員の質の向上のために、法人では研修体系を策定し、キャリアに応じた研修を明示しています。職員に向けて、職業人生を自ら計画し実行することで、自分らしいキャリアアップを図る事を目的として、みおつくし福祉会受講管理手帳（キャリアアップ体系図、研修体系図、受講履歴管理シート、研修報告書、目標管理シートを含む）を作成し配布しています。必要なスキル習得に向けて積極的に参加を促し、自分のキャリア・実践を可視化できる仕組みが構築されています。研修報告書に、①研修の目標および心構え ②研修で学んだこと ③研修の評価（5段階評価）を記載し、職員全員で回覧し、共有する仕組みが整備されています。

③ 19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a	a
<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	○
<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○	○
<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	○
(5種別共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

年間の研修計画は職員に周知され、職員が希望する研修に参加できる仕組となっています。また、研修費用は全て施設が負担しています。「新任職員育成マニュアル」が整備され、新入職員には同じ部署内で教育担当職員が決められ、OJTシートを活用しながらOJTが行われています。外部の大学講師を招いてのSV（スーパービジョン）が隔月で行われ、職員の支援技術の向上等に取組んでいます。

(4) 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	自己評価	F評価
① 20 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	a
<input type="checkbox"/> 実習生等の支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○	○
<input type="checkbox"/> 実習生等の支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○	○
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

令和5年度事業計画には、人材育成に向けた取り組みとして、実習生を積極的に受け入れる事を明記しています。令和4年度は20校26名の実習生を受け入れています。「実習生受け入れマニュアル」を整備し、プログラムに沿って実習指導をおこなっています。実習生の指導は、社会福祉士実習指導者研修を受講した職員や保育士の実習指導を行っている上級職員が担っています。また、実習生に対して、全職員が施設の理解について、説明できるスキルを身につけています。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	自己評価	F評価
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	b
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○	△
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○	○
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○	○
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	○	○
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

施設のブログは、ケース会議議事録担当職員が担当しています。施設のHPは、施設の理念や基本方針等については掲載されていますが、事業報告や財務状況等については掲載なく、また、セキュリティーを確実にするための、初期設定を再構築中なので、法人HPとのリンクが一時的に途絶えています。法人内3つの母子支援施設のHP担当者が集まり、HPを刷新する予定で進めています。また、地域に向けては「広報誌ひがさくニュースレター」を発行・配布しています。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

「小口金庫及び出納簿マニュアル」「現金入金簿マニュアル」「物品購入発注図書マニュアル」等々の経理や取引等に関するマニュアルを整備し、職員に周知しています。また、職務分担表や業務分担表は年度初めに職員に配布され、周知しています。毎月、事務・経理・取引等について会計事務所からの会計指導を受けています。法人による内部監査や監査法人による外部監査を受けて、指摘事項に基づき経営の改善に繋げています。

4 地域との交流、地域貢献

(1)	地域との関係が適切に確保されている。	自己評価	F評価
①	23 母親、子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設や母親と子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の母親と子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○	○
	(母子生活支援施設) <input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

令和5年度事業運営方針には、子どもたちが公園遊び、地域児童を巻き込んだ遊びを推奨する。また、地域資源（地域に存在する特徴的なモノやヒト等）、社会資源（制度・機関・人材等）を積極的に活用し、人との温かな関りを通して、母親だけでなく大人との信頼関係を育むと明記されています。子どもたちの友人を施設に招き入れることは許可していませんが、それは、外・地域で遊び、できるだけ地域と繋がり、地域に出向いていく力を付けられるようにするためです。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して母親と子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

ボランティアの受け入れ方針、活動内容や注意事項、担当者等を記載した「ボランティア受け入れマニュアル」を整備しています。当日、ボランティア規定をオリエンテーション時に渡し、参加者に読んでもらっています。参加者は「こんにちはシート（自己紹介）」をボランティアを始める前に記入し、学童ルームの前に掲示して、子ども達や職員と話すきっかけとしています。小学校の先生に向けて、施設から通学する児童についての理解を得るための研修を実施しています。中高生向けの事業「リアンラボ」には元実習生や退職した職員が参加しています。

(2) 関係機関との連携が確保されている。	自己評価	F評価
① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	a
<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の母親と子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○	○
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体が不在場合には、母親と子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○	—

【判断した理由・特記事項等】

社会資源リストを作成し、母子の退所先となる地域での自立に必要なと思われる社会資源に繋げるように取り組んでいます。保育所、小中学校、区役所など、定期的に開かれる会議に参加し、また、要保護児童対策協議会の実務者会議等には主任が参加しています。東成区子ども居場所連絡会（ひなどりの会）に参加し、東成区子育て支援室、東成区社会福祉協議会、東成区民生児童委員協議会、東成区内の子育て拠点や子ども食堂と連携し、イベントの企画や情報を共有しています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	自己評価	F評価
① 26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○	○
(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	○
(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

地域生活困窮家庭へ職員をCSWとして派遣しています。地域の子育てサロン「ぼっぼーハウス」へ参画しています。保育士が夕方定時に子どもを連れて散歩に出かける際に、施設周辺で暮らす退所母子と出会って会話する機会があり、そのつなぎから地域の福祉ニーズ等を聴きとれることもあります。共励会（母子や寡婦を支援する事業）や東成ソケット（企業と地域市民の集まり）に職員を派遣することにより、地域のニーズ把握に努め、施設の専門性を活かして相談に応じる中でも、地域の福祉ニーズ等の把握に努めています。

② 27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	a
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○	○
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

令和5年度の事業計画には、地域住民や他機関とのネットワーク作りを通して、ひとり親家庭を支援することが明記されています。また、ひだまり学習塾事業を通して地域での見守り体制の構築に力を入れています。子どもの居場所OSAKA等に参加し、支援企業からの提供物資の仲介場所としての拠点事業を担っています。子育てサロン「ぼっぼーハウス」に保育士を派遣し親子活動を支援する取組を実施しています。施設は東成区災害時協力企業等登録を行って、提供できる支援や物資を予め公示しています。

Ⅲ 適切な支援の実施

1 母親と子ども本位の支援

(1) 母親と子どもを尊重する姿勢が明示されている。	自己評価	F評価
① 28 母親と子どもを尊重した支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、母親と子どもを尊重した支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもを尊重した支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的な人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの尊重や基本的な人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

法人の理念、倫理綱領等に母親と子どもを尊重した支援の実施について明示し、共有スペースにも掲示しています。また、母親の自治会である睦会を2か月に1回、睦会役員会を毎月開催し、施設の方針や行事等を文書化して母親に配布しています。その間幼児を保育室で預かるなどの支援をおこなっています。法人の人権研修指導者研修を毎年担当者が受講し、施設内で全職員対象に人権研修を実施しています。今回の第三者評価による母親アンケート調査では、母子を尊重する支援が行われているかを聴きとる設問の多くで肯定的な回答が9割前後と好評価を得ています。

② 29 母親と子どものプライバシー保護に配慮した支援が行われている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親と子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○	○
<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 一人ひとりの母親と子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、母親と子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもにプライバシー保護に関する取組を周知している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

プライバシー保護に関しては、就業規則等に取扱いが記載され、職員に周知徹底しています。母子世帯のプライバシーが守られており、居室への入室は事前承諾なく立ち入らないと、しおりに明記し説明しています。学童にはSNSについてのワークを実施し注意点を指導しています。「母と子どものプライバシーについて」という文書には、緊急で母に連絡をとらなければならない時、例えば子どもにけがや発熱があった時などに、母親の就労先に連絡する際に、施設からと気づかれないような配慮を記しています。また、「母と子どものプライバシーについて」という文書には、実習生・ボランティアにプライバシー保護について周知を徹底することが規定されています。

(2) 支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	自己評価	F評価
① 30 母親と子どもに対して支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の母親と子どもについては、個別に丁寧な説明を実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

大阪府内の母子生活支援施設協同の魁プロジェクト（母子生活支援施設の特色等をパンフレットに掲載）に参画しています。魁プロジェクトは、母親を直接の対象とするのではなく、相談を受けて母子生活支援施設の利用を勧めるべき福祉事務所の窓口職員に母子生活支援施設を理解してもらうことを主眼に置いています。また、役所窓口職員が正しく施設を紹介できるように、役所職員向けの勉強会を実施しています。施設利用のしおりやパンフレットには漢字にルビをうち、イラスト等を入れて視覚的にわかりやすくしています。また、保育のしおりの英語バージョンも作成し、日本語での会話が難しい場合は翻訳機を活用しています。施設見学も積極的に受け入れています。

②	31 支援の開始・過程において母親と子どもにわかりやすく説明している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う支援について母親と子どもができるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、保護者等の自己決定を尊重している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 支援の開始・過程においては、母親と子どもの同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な母親と子どもへの配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

入所オリエンテーションは相談室又は入所者居室において、施設利用のしおりを基に丁寧に説明しています。入所者が日本語の理解が難しい場合は、通訳の同席や電子辞書等を使っています。学童児と母親とは年2回定期面談を実施しています。アセスメントに基づく個別的な自立支援計画を立てるプロセスの中で、利用者自身が目標を立てる面談を実施し、施設や職員が一方向的に計画をして同意を得ている、というレベルを超えていて、高く評価できます。

③	32 支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として母親と子どもが相談できるように担当者や窓口を設置している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、母親と子どもに対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

施設変更や母子分離の際には、引継ぎ会議を実施し、学童・幼児の措置変更時の引継ぎ表を作成し、支援の継続性の確保に努めています。退所説明の際に手続きや社会資源についても情報を提供しています。退所後も施設との繋がりをもてるように、学童と職員、母親と職員、別々のSNSで繋がっています。退所時には施設の電話番号、職員メールアドレス等を記載した連絡先カードを渡しています。令和5年度より、時代に沿った連絡手段としてSNS（LINE）の活用も試験的に開始し、母親や子どもが相談しやすい方法を選べるようにしています。退所児童無料学習塾ひだまりの案内をし継続した学習支援体制をとっています。

(3)	母親と子どもの満足の向上に努めている。	自己評価	F評価
①	33 母親と子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	b
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもへの個別の相談面接や聴取等が、母親と子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○	△
	<input type="checkbox"/> 職員等が、母親と子どもの満足を把握する目的で、母親と子ども会等に出席している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、母親と子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	△	△
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

日々の支援を通じて、母親と子どもの気持ちを把握しています。玄関に意見箱（ひがさくBOX）が設置され、学童の部屋にも意見箱（目安箱/あのねのメモ）が設置されています。睦会や子ども会に職員も参加して、母親や子どもの意見を聴き取り、職員会議等で検討してフィードバックしています。年2回の定期面談、その他必要な時に面談を行っています。随時出される個々の意見、要望等には対応しておりますが、満足度を把握するまでにはいたっておりません。支援の質を高めるために、施設として定められた仕組みにしたがって、継続した取組、施設の支援の向上に向けた取組を期待します。

(4) 母親と子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		自己 評価	F 評価
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を母親と子どもに配布し説明している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、母親と子どもが苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、母親と子どもに必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た母親と子どものプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
施設の「苦情解決対応マニュアル」には、様々なケースを想定したチャート(手順)が示され、そのほかにも「苦情解決体制規程」、「意見箱設置マニュアル」、「公益通報者保護規程」などが整備されています。苦情の受付については、しおりに記載し、事務所前にも掲示しています。苦情の申し出には苦情受付者が対応し、問題が解決に至らなかった場合は、職員会議等で情報を共有し対応を協議しています。苦情や意見・要望等への対応経緯は、連絡票や苦情受付・経過記録書に記述しています。苦情解決の結果等は、苦情を申し出た母親や子どものプライバシーに配慮した上で法人のHPで公開しています。			
②	35 母親と子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、母親と子どもに周知している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもに、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 相談しやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
「リアン東さくら意見・相談対応マニュアル」を整備しています。施設利用のしおり、学童のしおりに記載し、オリエンテーションの際に丁寧に説明しています。相談内容に応じて、オープンスペースや相談室を活用する等ハード面も整備されています。			
③	36 母親と子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の支援の実施において、母親と子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、母親と子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	△	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	△	△
【判断した理由・特記事項等】			
入所者の生活リズムに合わせて日頃から積極的にコミュニケーションを図ることで相談しやすい関係を築いています。令和5年10月から「リアン東さくら意見・相談対応マニュアル」を整備し運用しています。意見や相談は個別支援記録に記入し、各部署又は全体で協議し、申出者に返答しています。また、個別支援記録を回覧し、引継ぎ会議での共有により職員間に周知を図っています。相談や意見に対して迅速な対応と「リアン東さくら意見・相談対応マニュアル」の定期的な見直しを期待します。			

(5) 安心・安全な支援の実施のための組織的な取組が行われている。		自己評価	F評価
①	37 安心・安全な支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネージャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
リスクマネジメント関連のマニュアルを整備して、職員の役割を定めています。毎月の職員会議でヒヤリハット報告を共有して事故防止を点検しています。保育室の環境の見直しを行って室内の段差を解消したり、開放廊下に雨の降り込み防止のパネルを設けて床濡れによる転倒を防止するなどの環境改善を行っています。また、建物・設備の長期修繕計画の作成を施工会社に要請しています。日中は玄関を施錠せず、開放的な施設としていますが、DV加害者等不審者の侵入には職員が話し合いで対応して退けています。ただ、状況によっては警察へ通報したり、他の施設への転居を勧める場合もあります。			
②	38 感染症の予防や発生時における母親と子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
感染症の対応マニュアルを整備しています。感染症発生時には「健康状態把握表」などにより、日々の引継ぎ会議で情報を共有して対応しています。1階の掲示板に、インフルエンザの予防接種やコロナウイルスに罹患した場合の診療の流れを掲示して、感染症対応の情報を母親へ周知をしています。嘔吐処理消毒液を自動でつくれる機械を導入し、職員は平素の訓練でその使用手順を習得するなど、いざという時に的確に対応できるように備えています。			
③	39 災害時における母親と子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 母親と子ども及び職員の安否確認の方法が決まられ、すべての職員に周知されている。	△	△
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
自衛防災組織編成表をもとに防災対応の体制を整えており、令和5年にはBCPを策定しています。毎月の防災訓練では、職員の役割を入れ替えたり、火災発生場所や時間帯を変えるなど、様々な想定に対応することができるように実施しています。また消防署の協力を得て防災講習を実施し、非常階段や避難器具などの避難経路や消防設備の機能確認を行っています。災害時の安否確認については、入所者緊急連絡先のファイルを整備するとともに、正規職員は緊急時もLINEで連絡を取り合えるようになっています。今後は、非常勤職員を含む全ての職員の安否確認ができる手立てが求められます。BCPについては、職員研修により、共通理解を深めていくことが大切です。			

2 支援の質の確保

(1) 支援の標準的な実施方法が確立している。		自己評価	F評価
①	40 支援について標準的な実施方法が文書化され支援が実施されている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、母親と子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
母子支援、少年指導、保育の3部門それぞれに支援マニュアルを整備し、標準的な実施方法が示されています。母親と子どもを尊重して、その権利擁護やプライバシー保護に努めるべきことは、倫理綱領や就業規則にも明記され、職員には研修や日々のOJTで周知徹底しています。また施設利用のしおりにわかりやすい表現で母子に周知しています。標準的実施方法どおりに支援が行われていることは、支援記録の共有やケース会議で確認しています。			
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的実施されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や母親と子どもからの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
日々の支援記録には、支援内容のほか、母親や子どもの変化や意見、職員の見立てを記録しており、職員は職員会議やケース会議で標準的な実施方法との整合性を確認するとともに、標準的実施方法の見直しを考察しています。標準的実施方法の見直しは、そうした経緯を踏まえて年に1回、定期的実施しており、見直された内容は職員会議等で職員間で共有されています。			
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		自己評価	F評価
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、母親と子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な支援の内容等が明示されている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、母親と子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な支援が行われている。	○	○
【判断した理由・特記事項等】			
母子・少年・保育、各部門の職員が協力して、入所後1ヶ月を目途に、母子からの聞き取りや観察をもとに世帯のアセスメント票を作成していますが、その結びに「見立て」として課題解決のための仮説を構築しています。アセスメントに基づいて職員が一次の自立支援計画を立てた後に、利用者も参加する会議で利用者の目標を尊重した二次の自立支援計画を策定しています。利用者本人が受け身ではなく、自らの自立支援計画策定に主体的に参加する機会が設けられていることは高く評価できます。支援困難なケースについては、詳細な記録を作成し、日々の引継ぎ会議でも情報を共有して、職員全体で積極的かつ適切な支援を実施する体制を整えています。			

② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、母親と子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

自立支援計画どおりに支援が行われていることや母子の変化をモニタリングで確認しています。そのうえで半期に1度、定期面談を行って、中長期の自立支援計画の見直しを行っています。さらに、母親と子どもの状況に合わせて、短期の自立支援計画を毎月あるいは隔月に見直して支援に反映しています。母子の状況によって必要な場合にはケース会議やSVを経て、再プランニングを行う手順を定めています。

(3) 支援の実施の記録が適切に行われている。

自己
評価

F
評価

① 44 母親と子どもに関する支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	○
<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	○
<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	○
<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

日々の支援記録は、母子生活支援施設管理システムで一括管理するとともに、日々の引継ぎや各部署の会議、ケース会議等で情報共有に活かしています。記録方法について「さくら園記録要領」により職員間のバラツキがでないように指導しています。今後は、記録要綱が示すポイントを踏まえた記述を徹底するとともに、詳細な記録の冒頭に要点を簡潔に記すことなど、記録が情報のストックになるのではなく、生きた情報として活用されることを期待します。

② 45 母親と子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	a
<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、母親と子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○	○
<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

就業規則や倫理綱領に個人情報保護の姿勢を示し、個人情報保護規程や特定個人情報保護取扱い規定を定めて、個人情報の授受や文書ごとの保存期間を定めています。母親と子どもには、しおりに個人情報の取扱いを記し、オリエンテーション時や個別の説明をしています。職員は研修を受講して個人情報保護の要点を理解して日々の行動に留意しています。例えば、FAXを送る際の内容を制限したり、事務室でパソコン入力する際などは画面にフィルターをかけたり、窓口から遠い席で行い、離席する際は書類やパソコンを書庫に収納するなど、慎重な対応を行っています。

内容評価基準（25項目） A－1 母親と子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 母親と子どもの権利擁護	自己評価	F評価
① A1 母親と子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○	○
<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○	○
<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、関係機関等と連携を図り対応している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの思想・信教の自由を保障している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

理念・基本方針に「誰もが住み慣れた地域社会の中で自分らしく安心して暮らせる生活を続けることができる環境づくり」を掲げて、母親と子どもの権利擁護の姿勢を示しています。全職員を対象として人権研修を実施して、職員はその趣旨に基づいた支援を徹底しており、権利侵害の防止と早期発見に努めています。母親と子どもそれぞれに、エンパワメントプログラムを通じて自他の権利を尊重することを育み、宗教や信教の自由を保障しつつ、他者の権利が損なわれないように促しています。

(2) 権利侵害への対応	自己評価	F評価
① A2 いかなる場合においても、職員等による暴力や脅かし、人格的辱め、心理的虐待、セクシャルハラメントなどの不適切なかかわりが起こらないよう権利侵害を防止している。	a	a
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定し、施設長が職員と利用者の双方に事実確認や原因の分析等を行うことや「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの起こりやすい状況や場面について、具体的な例を示しながら、研修や話し合いを行い、職員による不適切なかかわりを行わないための支援技術を習得させている。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの禁止を職員等に徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員からの暴力や言葉による脅かしなどの、不適切なかかわりが発生した場合に対応するためのマニュアル等を整備し、規程に基づいて厳正に対応している。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりや暴力を見たり聞いたりしたら、管理者等に報告することを義務付けている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

職員は、日頃より引継ぎ会議等で母親や子どもへの対応状況を共有し、不適切事案の発生がないか確認しています。また不適切な関わりが行われないよう「不適切事案の対応マニュアル」を整備し、職員の気になる言葉遣いなども、先輩職員や主任に報告して組織で協議する仕組みを講じています。他施設で不適切事案が発生した場合には、会議等で取り上げて、自施設に当てはめてリスク分析をする事により職員に注意喚起しています。人権研修に参加した職員は、組織内に研修報告や資料回覧をして、権利擁護に係る知見を共有しており、不適切なかかわりが起こらない体制作りを徹底しています。

② A3 いかなる場合においても、母親や子どもが、暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切な行為を行わないよう徹底している。	a	a
<input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止について、具体的な例を示して、母親と子どもに周知している。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行為に迅速に対応できるように、母親と子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行為の防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことの確認や職員体制の点検と改善を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切な行為を伴わない人とのかかわりについて、母親や子どもに伝え、良好な人間関係の構築を図っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

職員は日々の支援のなかで母親や子どもの心身の状態を把握し、職員間で共有しています。母親を対象としたプログラム「ゆったりタイム」では、母子関係を含めた対人関係において対等な関わりや関係性を築けるよう支援しています。また、子どもたちは「わくわくワーク」などのプログラムを通して不適切な行為・言葉（とげとげ言葉など）について学び良好な人間関係の構築を図っています。

③ A4 子どもに対する暴力や脅かし、人格を辱めるような不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	a
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりに迅速に対応できるように、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう留意している。	○	○
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識・具体的方法について学習する機会を設けている。	○	○
<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを伴わない子育てについて母親に伝え、良好な親子関係の構築を図っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 常に親子関係の把握に努め、適切な助言や支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

職員は連携して、子どもの言動だけでなく、表情や衛生面、ケガの有無など子どもの被害や訴えなどを意識し、家庭訪問などを行い、母子の関係性の把握に努めています。母親が困難さを抱く点については適切な関わりを方を具体的に伝えたり、共に考え実践することで母子関係の構築を支援しています。また、母親と子どもが参加する「いきいきワーク」や学童児のための「わくわくワーク」などのプログラムを通して、不適切な関わりを伴わない良好な親子関係の構築を図っています。

(3) 母親と子どもの意向や主体性の配慮

	自己評価	F評価
① A5 母親や子どもが、自分たちの生活全般について自主的に考える活動（施設内の自治活動等）を推進し、施設における生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	a
<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動(施設内の自治会活動等)を母親の理解のもとで実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 子どもが問題や課題について主体的に検討し、その上で取組、実行、評価するといった内容を含んだ活動を母親の理解と協力のもと実施している。	○	○
<input type="checkbox"/> 活動を通して、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう必要な支援をしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親が自らの権利を学び、自主的に自分の生活を改善していく力を養えるよう支援している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親の自治会活動等を通して、母親の自己表現力、自律性、責任感などに対する支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

母子それぞれのエンパワメントプログラムが設けられています。プログラムにテーマを設定してグループワークやロールプレイをすることによって、自己肯定感や人との距離感、コミュニケーション力を養えるよう支援しています。その際、必要に応じて心理士も参加しています。また、母親の「ゆったりタイム」では5～6人の単位で手芸やおやつ作りなどグループワークを行い、それぞれの話をしながら悩みを吐露する機会となっています。中高生のリアラボや学童の係活動では、子どもたちが主体的に活動内容やルールを決めています。

(4) 主体性を尊重した日常生活

	自己評価	F評価
① A6 日常生活への支援は、母親や子どもの主体性を尊重して行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親や子どもの自尊心や強みを大切に支援を行い、自己肯定感が回復し高まるような支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもに対してストレングスの視点に基づいて、エンパワメントしていく支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 常に母親と子どもの主体性を尊重した支援を通して、その人が力を発揮できるよう支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

職員は日々の支援の中で、母親や子どもそれぞれの強みを把握し、カウンセリングや各種のエンパワメントプログラムを実施しています。また、母親が自己選択が困難な状態においても、必要な情報を提供したり選択肢を共に考えたりすることで自己選択、決定ができるよう支援しています。学童では日々の生活の中でさりげない良い行動などを「サリゲナさんジャーナル」として学童ルームに掲示して、子どもの良い点や強みを伸ばし、エンパワメントを図る支援を行っています。

② A7 行事などのプログラムは、母親や子どもが参画しやすいように工夫し、計画・実施している。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親や子どもが施設での生活を楽しめるような企画を用意している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの主体的な参画を前提とした行事・プログラムを用意している。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親向けのプログラムでは、母親が安心して参加し楽しめるように、保育などのサポートを行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親や子どもの状況を考慮し、参加しやすいように内容・時間等を工夫している。	○	○
<input type="checkbox"/> 行事等の実施後に、評価を行い次回の実施につなげている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

年間の行事計画には、バスツアーやアウトドア体験、季節の行事など母親や子どもの要望を反映したプログラムが用意されています。行事終了後にはアンケートを実施して、次年度の企画に反映しています。行事参加がしんどいという母親には、声かけとともに職員が同行する提案などで参加を促しています。また、母親を対象とした行事では、施設内保育の実施と夕食を職員が作り提供するなど参加しやすい工夫をしています。学童児等の行事では、企画段階から子どもたちが参加し主体的に取り組む機会となっています。

(5) 支援の継続性とアフターケア

	自己評価	F評価
① A8 母親と子どもが安定した生活を送ることができるよう、退所後の支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 退所後の支援が効果的に行われるよう、退所後の支援計画を作成している。	○	○
<input type="checkbox"/> 退所した地域で安定して暮らすために、必要に応じて退所先の行政機関をはじめ、多様な地域の関係機関や団体とネットワークを形成し、母親と子どもが適切な支援が受けられるようにしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 退所後も電話や来所によって施設に相談できることを母親と子どもに説明し、生活や子育て等の相談や施設機能を活用した(学童保育・学習支援・施設行事への招待等)支援を提供している。	○	○
<input type="checkbox"/> 退所後の生活が安定していることを確認するための往訪や架電等の取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて退所先に往訪し、介助や同行・代行等の支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

退所後に母子が地域での生活を安定して送れるように、インケアの段階から必要な社会資源と繋がるよう情報提供をしたり、職員が同行しています。子ども相談センター等、関係機関との引継ぎや連携も行っています。「育ちアルバム」に施設の住所や担当職員の名前を記載するとともに、施設の電話番号や職員のメールアドレスを記載した持ち歩ける名刺サイズのカードを用意し退所時に渡して、退所後も相談ができることを伝えています。退所した学童児を対象とした無料学習塾の実施や、施設内カウンセリングの利用継続など施設の特性を活かした支援を継続しています。

A-2 支援の質の確保

(1) 支援の基本

	自己評価	F評価
① A9 母親と子どもそれぞれの個別の課題に対応して、専門的支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親と子どもがそれぞれ抱える個別の課題に対して、目的や目標を明確にし計画的で一貫した専門的支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもの課題を正しく理解し、親子・家庭のあり方を重視した支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもが、自己の意思で課題を解決できるように個々の気持ちに寄り添った支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 資料等を使いながら、必要な手続きをわかりやすく説明し、必要に応じて職員が機関等への同行及び代弁を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 専門的な支援を行うために、その支援に必要な資格や経験等を考慮した職員を配置し、職員間で連携・協議を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

入所1ヶ月を目途にアセスメント票を母子それぞれの職員が協働で作成しています。アセスメント票には、詳細、かつ多岐にわたる聞き取り情報、高いスキルの見立てなどが記載され、それを基に、SVを実施し、優れた専門的支援を行なっています。自立支援計画は、まず短期の自立支援計画票を作成して部署内で共有し、次に母親自身が設定した子育て・就労・経済面の目標などを面接で話し合いながら、本人の意思も尊重して長期の自立支援計画を策定しています。子どもの意思確認には、気持ちカードやイラスト付のカードを使うなどの工夫をしています。

(2) 入所初期の支援	自己評価	F評価
① A10入所に当たり、母親と子どもそれぞれのアセスメントに基づき、生活課題・ニーズを把握し、生活や精神的な安定に向けた支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 入所直後は心理的に不安になりやすいため、信頼関係の構築に心がけ、心の安定に向けた相談支援に努めている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親と子どもが安心して施設を利用し、課題の解決に向かえるように、関係機関等と連携して情報提供に努めている。	○	○
<input type="checkbox"/> 子どもが保育所・学校に速やかに入所・通学できるよう支援している。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、生活用具・家財道具等の貸し出しを行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 居室は、母親と子どもが生活するために必要な十分なスペースが確保され、プライバシーに配慮したものとなっている。	○	○
<input type="checkbox"/> 身体に障害のある母親や子どもに対しても、安全に生活ができるように配慮している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

入所時にはウエルカムカレーを提供し、「入所オリエンテーションマニュアル」に沿って、母子の不安感が軽減するよう丁寧な説明をしています。アセスメントで把握した様々な生活課題解決のために、関係機関と連携し、情報提供、同行、代行などの支援を実施しています。物心ついた子どもにとっては入所は本意であるケースも多いですが、安心・安全に生活できることが最重要課題です。現在日常生活に支障のある身体に障がいのある母子はいませんが、入所に対応できるようバリアフリーになっています。

(3) 母親への日常生活支援	自己評価	F評価
① A11 母親が、安定した家庭生活を営むために必要な支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 生活経験に乏しい母親には、職員と共に行うことで経験を補う等の支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 心やからだの健康に不安を持つ母親には、相談に応じたり、医療機関への受診を促したりするとともに、栄養管理等の食生活への支援を行うなど、ニーズに応じた健康管理のための支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、衣服の清潔保持や入浴など、気持ちよく暮らすために必要な衛生面への支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 経済的に安定した生活を送るために、必要に応じて家計の管理、将来に向けた貯蓄等の相談や支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 支援の必要性やニーズに応じて、家事・育児等、日常生活全般について、代行や介助等の支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

近年増加している特定妊婦等の出産直後の入所のケースでは、子どもの一時預かりをし、母親の心身のやすらぎ、ゆとりをサポートしています。また、乳幼児家庭訪問プログラム（生後6ヶ月まで週2回の家庭訪問）を実施し、母親の育児スキル獲得や愛着関係構築を支援しています。職員は、乳幼児家庭訪問プログラムについての研修や、専門家によるSVを受け、専門的な視点と技術を身につけて支援をしています。必要に応じて介入し、居室の片付けや入浴、調理などの家事支援をし、子どもが衛生的で安全に生活できるよう、子どもの養育環境を整えています。

② A12 母親の子育てのニーズに対応するとともに、子どもとの適切ななかかわりができるよう支援している。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親の育児に関する不安や悩み等の発見に努め、その軽減に向けた相談や助言、介助等を行うとともに、必要に応じて保育の提供や保育所へつなぐ等の支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親の状況に応じ、子どもの保育所・学校等への送迎の支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親が子どもを客観的に理解できるように、発達段階や発達課題について示し、適切な子育てやかかわりについてわかりやすく説明している。	○	○
<input type="checkbox"/> 虐待や不適切なかかわりを発見した時は職員が介入し、必要に応じて専門機関との連携を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、子どもが通う保育所や学校と連携している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

保育所、小中学校とは定例会議を実施し、情報を共有し、母の特性の理解を促し、お互いの役割分担を確認しています。地域の保育所に入所できない幼児については、施設内保育を実施していますし、地域の保育所の休日でも母親が出勤する場合は一時預かりも実施しています。母親を対象に「いきいきワーク」「『安心感の輪』子育てプログラム」を実施し、より良い親子関係の構築をサポートしています。母親の子どもに対する不適切な関わりを発見した時は、職員が介入し、必要に応じて関係機関と連携を図っています。

③ A13 母親が安定した対人関係を築くための支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親が職員とつながっていることを実感できるよう、様々な場面で気軽に声をかけたり、相談に応じるなどの取組を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設を自分の居場所として感じられるように、母親どうしが集うための機会や場を設け、交流を促すなどなど、関係づくりのための支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 対人関係がうまくできない母親には、母親のペースに合わせた関係性の構築に配慮を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 社会との関係をとることの難しさから対人関係にストレスを生じている場合は、そのストレスの軽減が図られるよう、心理療法を行ったり相談に応じたりしている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設内の他の母親や子どもとの間でトラブルが生じたときに、その関係性を修復もしくは改善するための支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

日々のコミュニケーションから母親のニーズを把握し、必要に応じて家庭訪問、親子関係の調整などを行っています。引きこもりや精神的に余裕のない母親には、職員と1対1のお茶会を実施して関係性を築き、悩みの相談に応じ、アドバイスしています。乳幼児のいる引きこもりの母親には、家庭訪問し、一緒におもちやを作りながら話すことで信頼関係を築くようにしています。自己肯定感の回復、自己有用感の獲得のために実施しているワーク「ゆったりタイム」は、母親同士の繋がりが生まれるきっかけになっています。活動への参加を促すため、保育や食事提供を行っています。対人関係にストレスを感じている母親には施設内カウンセリングを実施しています。

(4) 子どもへの支援

自己評価 F評価

① A14 健やかな子どもの育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 子どもの成長段階、発達段階に応じた養育支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 放課後の子どもの生活の安定や活動を保障し、活動場所、プログラム等を用意するとともに、日常生活上必要な知識や技術の伝達、遊びや行事等を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> DVを目撃した子どもを含め、被虐待児等や発達障害を含む様々な障害等の特別な配慮が必要な子どもに対しては、必要に応じて個別に対応し、子どもの状況に応じた支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親のニーズや状況に応じて、施設内の保育支援や保育所への送迎、通院の付き添いなどの支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 施設内における養育・保育に関する記録を整備し、支援に役立てている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

中高生の殆どが不登校で、不登校児には、朝の電話（起こす）、登校同行、個別のお茶会、部屋の片付けなど、個別に必要な支援を手厚く実施しています。必要に応じて、母親と相談し、放課後等デイサービスなどの社会資源を紹介し、機関と繋げています。中高生が主体的に運営するリアンラボを実施し、学校以外の活動の場、居場所作りを支援しています。リアンラボには学生ボランティアを始め、多くの大人が関わり、安心な大人モデルを呈示しています。学童児には週1回手作りおやつを提供し、食育を図るとともに、子ども同士の交流の機会を設けています。

② A15 子どもが自立に必要な力を身につけるために、学習や進路、悩み等への相談支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 落ち着いて学習に取り組める環境を整え、年齢に応じた適切な学習支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 学習の習慣を身につけるとともに、学習への動機づけを図っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 進学や就職への支援について、母親と子ども双方の意向をくみ取り、学校と連携して情報提供を行いながら、具体的な目標を定めている。	○	○
<input type="checkbox"/> 学費の負担軽減のため、各種の奨学金や授業料の減免制度等の活用への支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 学習指導のために学習ボランティア等の協力を得ている。	○	○
<input type="checkbox"/> 子ども一人一人の個性を重視した相談・支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

学習指導については、学童保育での学習支援、ナイトスクール、通塾支援・家庭教師代補助（大阪市の塾代助成制度を使って）を実施しています。ナイトスクールでは有償学生ボランティア・アルバイトによる1対1の指導をうけることができます。家庭教師利用の場合は部屋の提供もしています。進路については、職員が進路相談に応じ、奨学金や給付金の情報を提供するだけでなく、学校見学を母親に促したり、見学に同行したり、場合によっては、学校での懇談会にも同行しています。

③ A16 子どもに安らぎと心地よさを与えられるおとなのかかわりや、子どもどうしのつきあいに配慮して、人との関係づくりについて支援している。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親以外のおとなにも受け入れられたり、甘えられたりする経験を増やし、おとなとの信頼関係が構築できるよう支援している。	○	○
<input type="checkbox"/> ボランティアや実習生など、様々なおとなとの出合いの機会を設け、多様な価値観、生き方への理解をすすめている。	○	○
<input type="checkbox"/> 悪意や暴力のないおとなモデルを提供することで、おとなに信頼感を持てるよう支援している。	○	○
<input type="checkbox"/> 自分の気持ちをことばで適切に表現し相手に伝えることについて、日常生活の中でその方法を意識的に伝え、その能力が向上するよう支援している。	○	○
<input type="checkbox"/> 専門的なプログラムに基づいたグループワークを積極的に取り入れている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

実習生や学生ボランティアを積極的に受け入れ、日常的に多くの大人と接する機会を設けています。リアンラボ、キャンプなどの行事で出会う様々な大人は、子どもにとって暴力のない安心な大人モデルとなっています。「わくわくワーク」などのエンパワメントプログラムを実施し、暴力のない関わりやアサーションを学ぶ機会を設定しています。大学主催のアドベンチャーカウンセリングに参加し、連帯、協働、自尊感情の回復と信頼感の醸成を実体験しています。

※アサーション：相手の主張を否定したり、強い口調で押し込めることなく、自己主張をするコミュニケーションスキル

④ A17 子どもの年齢・発達段階に応じて、性についての正しい知識を得る機会を設け、思いやりの心を育む支援を行っている。	b	a
<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に正確な知識を持って応えている。	○	○
<input type="checkbox"/> 職員間で性教育に関する知識や、性についてのあり方などの学習会を行っている。	△	△
<input type="checkbox"/> 年齢、発達段階に応じて、性についての正しい知識、関心が持てるよう支援している。	○	○
<input type="checkbox"/> 年齢に応じた性教育の計画があり、正しい性知識を得る機会を設けている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

年1回助産師を講師に、性教育プログラム「こころとからだのワーク」を実施しています。ワークは対象児の構成と特質により、男女別、年齢別などで実施スタイルを変え、子どもが参加しやすいように、手作りをおやつの際に実施するなどの工夫をしています。少年指導員は性教育についての法人研修を受講しましたが、他職員の希望もあり、今後は全職員が受講し、子どもの性教育についての知見を高める意向を持っています。母親からの子どもの性についての相談には、男子に関することならば、男子職員がアドバイスしています。

(5) DV被害からの回避・回復	自己評価	F評価
① A18 母親と子どもの緊急利用に適切に対応する体制を整備している。	a	a
<input type="checkbox"/> 緊急時に備えて、夜間でも対応できる体制を構築している。	○	—
<input type="checkbox"/> 24時間の受け入れや広域利用など、広く母親と子どもの緊急利用を受け入れている。	—	—
<input type="checkbox"/> 役割分担と責任の所在を明確にし、配偶者暴力相談支援センター・警察署・福祉事務所等との連絡調整体制を整えている。	○	○
<input type="checkbox"/> 緊急時対応マニュアルを作成・整備している。	○	○
<input type="checkbox"/> 緊急利用のための生活用品等を予め用意している。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

大阪市緊急一時保護事業を受託し、2室を緊急室として準備し、生活必需品や食料品を整備しています。夜間に関しては、契約上の制約があり受け入れていませんが、受け入れ施設の情報を提供しています。日祝日は受け入れています。職員の役割分担や責任の所在などを明記した「緊急時対応マニュアル」を各部署の日記の中にも整備し、全職員がスムーズに対応できる体制を整えています。緊急一時保護の場合は、福祉事務所と連携し、手続きや書類作成の支援を行っています。必要に応じて貸付け金、寄贈品の食材や衣服の支給をしています。

②	A19 母親と子どもの安全確保のために、DV防止法に基づく保護命令や支援措置が必要な場合は、適切な情報提供と支援を行っている。	a	a
	<input type="checkbox"/> 保護命令制度や支援措置・DV相談証明の活用について、情報提供を行うとともに、必要に応じて法的手続きのための同行等の支援を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 弁護士や法テラスの紹介や調停・裁判などへの同行等、さらに必要に応じて代弁等の支援を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> DV加害者に居所が知れ、危険が及ぶ可能性がある場合には、母親と子どもの意向を確認した上で、速やかに関係機関と連携し、保護命令の手続きや他の施設への転居等の支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

DV被害者である母と子の安全確保を最優先し、母子の不安感に寄り添い、丁寧に相談に応じています。DV防止法に基づく保護命令、支援措置、DV証明の発行に必要な配偶者暴力相談支援センターへの相談等、必要な情報提供や同行を実施し、手続きを支援しています。配偶者に居所が知れ、危険が及ぶ可能性がある場合は、母子の意向を確認後、関係機関と連携し、施設移動、転居などの対応をしています。法的措置が必要な場合には、法テラス制度や無料法律相談などの情報提供、同行を実施しています。

③	A20 心理的ケア等を実施し、DVの影響からの回復を支援している。	a	a
	<input type="checkbox"/> DVIについての正しい情報と知識を提供し、DV被害者の理解を促し、自己肯定感を回復するための支援を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> DVから脱出することができたことを評価し、安心し安定した生活と幸せな未来について、職員と一緒に考え支援することを伝えている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法を活用し、医師やカウンセラーと情報交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、自助グループや外部の支援団体等の紹介を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

全職員がトラウマ・インフォームド・ケアの研修を受講し、DV被害者の理解を深め、専門的支援にあたっています。職員は、母の揺れ動く気持ちを理解し、日々の関わりの中でDVサイクルなどを伝えたり、避難の決断を肯定的に伝え返したりして、自己肯定感、自信の回復を図っています。週4日外部カウンセラーが来所して実施する母子のカウンセリングは気持ちの掃き出し、整理などに役立っています。こころの健康相談の情報を提供したり、区の精神保健福祉社と連携したり、様々な支援体制を整えています。

(6) 子どもの虐待状況への対応

	自己評価	F評価	
①	A21 被虐待児に対しては虐待に関する専門性を持ってかわり、虐待体験からの回復を支援している。	a	a
	<input type="checkbox"/> 暴力によらないコミュニケーションを用いるおとなのモデルを職員が示している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 子どもと個別に関わる機会を作り、職員に自分の思いや気持ちを話せる時間を作っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であることを伝えることや、感情表現を大切にすることで、自己肯定感や自尊心の形成に向けた支援を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 医療機関や児童相談所などの関係機関と必要な情報の交換を行いながら、より適切な支援を行っている。	○	○
	<input type="checkbox"/> 心理療法担当職員によるカウンセリング等の専門的ケアを実施している。	○	○
	<input type="checkbox"/> 被虐待児に対する支援の専門性を高めるための職員研修等を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

職員は子どもの困りごとを見極め、それに寄り添うことを心がけ、日々の支援の中で安心な大人モデルを呈示しています。施設内では、アタッチメント研修やトラウマ・インフォームド・ケア、「認知のゆがみ」などの心理研修を実施し、親子関係の構築や被虐待児や障がい児に対する知見や理解を深め、支援の専門性を高めています。必要に応じて、医療機関、児童相談所などの関係機関と連携し、より適切な支援を行っています。

(7) 家族関係への支援	自己評価	F評価
① A22 母親や子どもの家族関係の悩みや不安に対する相談・支援を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親の家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	○	○
<input type="checkbox"/> 子どもの家族関係の悩みや不安を受け止め、相談に応じている。	○	○
<input type="checkbox"/> 家族の中に感情の行き違いや意見の相違がある場合、適切に介入し調整を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、他の親族との関係調整を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

母子支援員、少年指導員や保育士が役割分担して、母子それぞれの悩みや不安を傾聴し、アドバイスしています。家族間のトラブルや感情の行き違いについては、母親と子どもそれぞれの思いを代弁したり、適時適切に介入をして、調整を図っています。子育てに悩む母親には、専門家のSVを受けた職員が乳幼児を持つ母親の家庭訪問を実施しています。また、必要に応じて、精神科医、児童相談所と連携して、家族関係の調整をしています。

(8) 特別な配慮の必要な母親、子どもへの支援	自己評価	F評価
① A23 障害や精神疾患、その他の配慮が必要な母親と子どもに対する支援を適切に行い、必要に応じて関係機関と連携している。	a	a
<input type="checkbox"/> 社会資源の積極的な活用をするための支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 公的機関や就労先、保育所や学校等と連携した支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 精神疾患があり、心身状況に特別な配慮が必要な場合、同意を得て主治医との連携のもと、通院同行、服薬管理等の療養に関する支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 障害や精神疾患がある場合や外国人の母親や子どもへは、必要に応じて公的機関、就労先への各種手続きの支援を行ったり、保育所、学校等、他機関と連携し情報やコミュニケーション確保の支援を行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

福祉事務所、保育所、小中学校とは定例会議を実施し、情報を共有し、連携して支援を行っています。精神疾患の母親に対しては、必要に応じて通院同行や服薬管理を行っています。また、子どもの特性によっては、放課後等デイサービス、子育てプラザなどの機関と連携して支援をしています。外国籍の母親とは子どもを通して意思疎通を図ったり、翻訳機や通訳を活用して支援にあたっています。「東さくら園の案内」や、理念・基本方針・ビジョンや「東さくら園が大事にしていること」には英語も併記されています。

(9) 就労支援	自己評価	F評価
① A24 母親の職業能力開発や就労支援を適切に行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 母親の心身の状況や能力・適性・経験・希望に配慮した支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 資格取得や能力開発のための情報提供や支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 公共職業安定所以外にも、パートバンクや母子家庭等就業・自立支援センター等、様々な機関との連携や調整、必要に応じて、同行や職場開拓等の支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親が安心して就労できるように補完保育(残業や休日出勤時の保育等)、病後児保育、学童保育などを行っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

ハローワークと連携しており、現在実施している施設内での適性検査に加え、今後は就職準備講座やセミナーの実施も検討しています。資格取得やスキルを身につけるため、一人親向けの無料就職講座や職業訓練などの情報を提供しています。施設内のキャリアカウンセラーがその人に適した職業選択をアドバイスしたり、キャリアプランを立てられるよう相談にのる体制もあります。看護専門学校入学を目指す利用者にはNPO法人の学習支援を受けられるよう計らい、施設でもそれをサポートするため、オンライン学習ができる部屋の提供やPCの貸出を実施しています。

② A25 就労継続が困難な母親への支援を行い、必要に応じて職場等との関係調整を行っている。	a	a
<input type="checkbox"/> 職場環境、人間関係に関する相談や助言など、個々に対応した幅広い支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 母親が望む場合、就労継続のために職場との関係調整を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 障害がある場合や外国人の母親の場合、その心身等の状態や意向に配慮しながら、就労の継続に向けての支援を行っている。	○	○
<input type="checkbox"/> 就労継続が困難な母親を積極的に受け入れている。	○	○
<input type="checkbox"/> 必要に応じて福祉的就労の活用を図っている。	○	○

【判断した理由・特記事項等】

施設では、一般就労、福祉的就労の両面から就労支援をしています。福祉的就労については、障がい者基幹相談支援センター、相談支援事業所、作業所などの関係機関と連携しています。就労以前に外に出ることに慣れる必要のある母親には、ボランティアと外出したり、職員が作業所の見学に同行したり、利用者のニーズに沿った支援をしています。人間関係などで、就労継続が難しくなったケースでは、職場との関係調整を実施し、継続できるようサポートしています。一般就労と福祉的就労のどちらが適しているか見極めが難しい人を就労に繋げるのが難しいのが実情です。